

二〇二二年度 選抜試験問題

国語総合 (試験時間60分)

※ 問題は指示があるまで開けないでください。

【注意事項】

- 1 解答用紙に受験番号・氏名を記入してください。
- 2 問題冊子は12ページで、解答用紙は別になっています。不良の場合は手を挙げて知らせてください。
- 3 解答はすべて解答用紙の所定欄に記入してください。
- 4 試験終了後、問題冊子は各自持ち帰ってください。

□ 一次の文章をよく読んで、後の問いに答えなさい。なお、解答はすべて所定の解答欄に記入しなさい。

## 自尊心の兆し

米国の発達心理学者ケーガンはいろいろ興味深い発達の現象を指摘している研究者ですが、幼児が自己を持つ証拠として「イ会心の笑み」(英語では *competent smile*) に注目しました。それは、たとえば、子どもが一人で積み木をタワーのように積んで高くなったと手をたたいて喜ぶ時の満足げな笑みに見られるとしました。誰かに積んでごらんと指示されたわけでもなく、誰かに ウホめられるわけでもないのに、うまく積めたと自分で喜んでいるのはまさに「会心の笑み」であるというわけです。

これは、自分のしたことに自分が満足しているという意味で、自尊心であるといつてよいでしょう。幼児の自尊心を調査した結果では、一人ではできそうにないことを「やってごらん」といろいろ要求してみると、生後20か月頃の子どもが、要求された課題ができないと エギゲン を悪くしました。この頃の子どもがもつとも自分ができないことが許せないようでした。

心理学者の矢野喜夫・のり子夫妻は子どもの成長記録を出版していますが、そのなかにも自尊心にもとづく光景が報告されています。たとえば、矢野家のWちゃんは2歳2か月の時に、うどんを箸で食べるといつて箸を要求して試してみても、「デキナイ、デキナイ」といつて泣きました(矢野・矢野、1986)。誰も箸で食べることをすすめたわけでもなく、できないことを非難しているわけでもありません。しかし、親と同じように箸で食べられないことに、子どもの自尊心が傷ついたというわけでしょう。

## 記憶力と自己

子どもに記憶する能力が育つてくると、自己は「今ここ」だけにとどまらず、時間と空間を超えたものになります。おとなは現在の自己と過去や将来の自己がつながっていることを自覚し、また、今ここにいる自分と会社で働く自分とがともに自分であると確信できます。これを可能にしているのが記憶力です。

子どもが生後18か月頃になると、現実の光景を頭にしまっておく「表象の能力を使い始めることを第2章で述べました。席をオハズしている母親の情報が頭の中にしまわれていて、これに支えられて一人にされても泣かずに「我慢」できたりする例がこれです。あるいは、幼児が目前にいない家族のしぐさを「ままごと遊び」のなかでまねたりするのも表象を持っているからです。私の友人は、「カイシヤ、イキタクナイナー」といつて出かける父親役を息子が幼稚園で演じていると教えられて、冷や汗が出たそうです。朝の父親のようすを描写したでしょう。

米国の発達心理学者キャサリン・ネルソンは生後21〜36か月の間の女兒Eと家族との日常会話を録音し分析しました。そして、24か月頃からEのその日の体験の描写が具体的にになり、しかも、時系列をたどって正確に報告できるようになったことに注目しています。たとえば、「(ベビーシッターの家で)寝ていたら、マミーが来て、おきて、家に帰って、水を飲んで寝たの」というようにです(Nelson, 1993)。このようにEは1日の生活の断片を報告するのではなく、ベビーシッターの家で眠っていること、そこに母親が迎えに来ること、迎えに来たら一緒に家に帰ること、そして、自分のベッドで寝ること、という一連のできごとが順番に自分におこったことを記憶しています。子どもの自己が「今ここ」にだけとどまらなくなっているわけです。

自分の個人的な経験についての記憶をエピソード記憶といいます。エピソード記憶にはそれがおこった場所、時、その時の感情が伴うとされていますが、この記憶は経験を自分のものだとする自己が関わらなければ成立しません。3、4歳になると子どもはおとながうまく手助けして聞き出すと、まだ未熟なものとはいえ、過去におこった自分の体験を記憶していることがわかります。幼稚園で先生が『だるまちゃん』(の本)を読んでくれてうれしかったこと、(スコットランドの)アバディーンのおばあちゃんの家で雪だるまをつくったときとても寒かったこと、一緒に遊んだ子がおもちゃをとったので怒ったこと、などが報告できます。

ここで注目しておきたいのは、子どもの自己はこうして周囲の人々の行動や反応に支えられて次第に明確になっていくということです。やさしいベビーシッター、必ず迎えに来る母親、好きな本を読み聞かせてくれる先生、遠くに住む祖母、けんかする友だち、などとの経験を共有しながらのやり取りが、子どもの自己をつくる材料になるということです。エリクソンが指摘し

ているアイデンティティの社会的側面とはこういった事実をさしています。人々が自分を認めてくれているという確信が自己を支えているわけです。

### 言葉の役割

子どもの自己の発達にとって言葉の働きは重要です。自分に固有の名前があることがわかるのは生後19カ月頃だといわれています。0歳児でも名前を呼ぶと振り向いたりしますが、別の子どもの名前を呼んでも同じような反応をしますので、自分の名前がわかっているかたしかではありません。「○○ちゃんはどこにいる？」と聞いて自分を指すことができるのは2歳近くになってのことです。「○○ちゃんがする！」「自分でする！」という発話が盛んになるのもこの頃です。自分の名前がそれまでの自己についてのさまざまな経験をまとめたり、自分の意思を表明する役割をはたしていると考えるとよいでしょう。

感情はそれぞれの人の内的な反応ですので、子どもが感情を表現する形容詞や動詞をいつ頃から使うようになるのかも注目されます。2歳前後から、「〜をしたい」「〜が欲しい」などという意思を表す動詞を使うようになるという調査報告があります。

また、生後32〜35か月の間の子どもと親の会話をキ分析した米国での研究では、3歳頃には次の例が示すように、クコウテイ的感情も否定的感情も、それがふさわしい場面で報告できるようになっていることがわかります (Fivush, 1993)。うまく聞き出してみると、何がおこったか、その時どのような気持ちだったのかも、理解していることがよくわかります。

母：昨日、(友だちの) Nと遊んだの？

子：うん。

母：あなたはNのこと怒ったの？

子：うん。

母：Nがあなたに何かしたの？

子…僕が、怒鳴ったの。

母…Nが何かしたの？

子…僕のおもちゃをとったの。象を。

母…ほかに何かNはしたの？

子…僕と遊んだ。

母…そう。遊んだときは楽しかった？

子…うん。

母…象をとったときは怒ったけど、あとは、楽しかったの？

子…そう。

## 自己概念

自己概念とは「私はこのような人間です」という自己についての本人の知識をいいます。自己概念は自分の体験や他者の自己への反応をまとめ、整理して明らかになりますので、それには言葉が重要な働きをします。先に「二十答法」<sup>【注2】</sup>で測ったのがこの自己概念です。5歳児にたずねてみたところ、次のように、幼児期終わり頃には、自分はどのような人であるかを子どもでも答えることができるようになりました。

飯沼牧子(1992)は「二十答法」をヒントにして5歳児に面接調査をし、幼児後期には自分の短所を含めて、自分について内面的な特徴で説明できるようになっていることを明らかにしました。ある女兒は「いもうとをいじめるところ」は自分の「悪いところ」であり、「ちよつとこころがやさしくなったところが(年少さんの時に比べて)おおきくなった」証拠だと答えました。また、「おれ、もん(門)っていうかんじ かけるよ」と小学生の兄とはりあって自分の能力を報告した男児もいました。別の質問には「ボクネ……」と答えていたのに、この質問では「オレネ……」と胸を張ったのでした。子どもの持つ成長感が伝わっ

てきます。

飯沼が聞くのを躊躇(ちゅうちゆう)したのは「あなたは大切な子だと思えますか？」という質問でした。幼児には質問の趣旨ケが理解されないかもしれないと心配したのでした。ところがたずねてみると、それは杞憂(き)におわりました。子どもはこの質問に「うん、大切な子だよ」と迷わずに答えたのです。「パパが、いつも、わたしといもうとのことを、たからものだっていうからね」、あるいは、「ママが、いつも、そういうもん」といって、多くの幼児が自分は大切な人間にちがいないとほとんど迷うことなく答えたのです。「宝ものだよ」「大切な子よ」などという日常生活での親の言葉が、幼児の心にしっかり留まっていることがわかります。次の短歌は、新聞の歌壇に「トウコウトウコウされたほほえましい作品です。このような親子のやりとりが日々積み重ねられているのであろうと思います。

A 「大事だよ」

B そう聞き C はにかみ

D 「そうなの？」と

2 布団に深く潜りこむ吾子

(小島陽子、朝日歌壇『朝日新聞』2013年10月7日)

記憶、言語などの知的能力、3 日常の豊かな経験、安定した人間関係のある生活が、子どもの自己概念を育んでいることがうかがわれます。自己概念ができあがると幼児期の自己は完成です。小学生以降の自己は「二十答法」でみたように、言葉の働きを本格的に活かした特徴を持つようになります。

(高橋恵子 『子育ての知恵 幼児のための心理学』第4章、「2 幼児期の自己の発達」より)

岩波新書〈新赤版〉1760・二〇一九年)

**出題者注**

【注1】 第2章には、「子どもが頭の中に母親との日常の経験をしまっておける『表象』の能力を発達させ始める2歳くらい」という記述がある。

【注2】 「二十答法」とは、自己の内容の測定法のひとつで、「私は」で始まる短い文を最大20個作って、外的・内的特徴を取り出す方法。子どもでは外形の記述が多く、おとなになるにつれて、また精神的に安定しているほど、内面的な特徴、特に、性格についての記述が多くなるともいう（筆者の記述による）。

問一 二重傍線部ア〜コについて、漢字にはひらがなで読みを、カタカナには相当する漢字を、楷書で書きなさい。

問二 二重傍線部ア「兆し」の類語を集めた次の中から、ふさわしくないものを選び、記号で答えなさい。

- ① 前触れ
- ② 予見
- ③ 前兆
- ④ 先ぶれ
- ⑤ 芽生え

問三 二重傍線イを含む「会心の笑み」の説明として最も適当なものを、次から選びなさい。

- ① いつも自分の状態に満足しているという気持ちから出た笑い
- ② 期待に添えたことがうれしいという気持ちから出た笑い
- ③ 高い目標がかなったことがうれしいという気持ちから出た笑い
- ④ 自分のやりたいことができたことがうれしいという気持ちから出た笑い
- ⑤ ひとりですることがうれしいという気持ちから出た笑い

問四 傍線部1「表象の能力」が使えるようになった子どもができることのうち、3歳以上の子どもに備わることにはどのようなものがあるでしょうか。最も適当なものを、次から選びなさい。

- ① 母親がいなくても我慢できる
- ② 家族のしぐさを再現できる
- ③ 体験を時間にそって報告できる
- ④ 体験を自分の感情をふくめて記憶することができる
- ⑤ 父親の気持ちを演じることができる

問五 傍線部 A～D についてそれぞれの話者・主体を次から選んで答えなさい。

- ① 子
- ② 親

問六 傍線部 2 「布団に深く潜りこむ吾子」の気持ちとして、最も適切なものを次から選びなさい。

- ① 人が自分を認めてくれているという過信
- ② 大事にされることが布団に表れているとそれにくるまる
- ③ 照れくささから布団の中に逃げたい
- ④ 大事に思われている満足感で安心して眠る
- ⑤ 人を大事に思う満足感にくるまれない気持

問七 傍線部 3 にある「日常の豊かな経験、安定した人間関係」を表すことからのうち、最も適切なものを次から選びなさい。

- ① 「ままごと遊び」などのごっこあそび
- ② 子どもと関わる人が子どもと経験を共有して子どもを認めること
- ③ 預けられている間もやさしく関わられ必ず母親に迎えられること
- ④ 子どものコウテイ的感情や否定的感情を聞き出してあげること
- ⑤ 子どもの成長感を聞き取ってあげること

二

次の文の（ ）の箇所にとの語句を補えばよいのか、最も適当なものを、それぞれア～ウの中から選びなさい。

- 1 A君とは（ア 固執 イ 胸襟 ウ 心労）を開いて話し合いたい。
- 2 彼のいうことは、あながち（ア やらせてよい イ 嘘だ ウ 嘘とはいえない）。
- 3 お役に立てるとは（ア 望外 イ 慮外 ウ 法外）の喜びです。
- 4 今度の仕事では成果を上げて、汚名（ア 返上 イ 挽回 ウ 撤回）を目指したい。
- 5 公園まで園児を（ア 引卒 イ 統率 ウ 引率）します。

三

次の1～5は、目上の人やあまり親しくない人に対する言い回しです。最も適切な表現をア～ウの中から選び、記号で答えなさい。

- 1 保護者の皆さま、お迎えは2時までで(ア) おうかがい イ お越し ウ おまいり) ください。
- 2 バックはどのデザイン(ア) にします イ をお選びになられます ウ がお好みでしょう) か。
- 3 佐藤さんと展覧会に行きますが、先生も(ア) いらつしゃい イ まいられ ウ お行きになられ) ませんか。
- 4 父は、郷里の山形に(ア) おり イ いらつしゃい ウ おられ) ます。
- 5 もう一つ、ケーキを(ア) たべて イ お召し上がり ウ お召し上がりになられて) ください。

四

次のカタカナにあてはまる漢字を、それぞれ後ろの語群の中から選び、記号で答えなさい。

- 1 今度の展覧会は作品のコウセツは問いません。
- 2 先生のごコウセツを承り、感銘を受けました。
- 3 代議士にはコウセツの秘書がいる。
- 4 明日は急に冷え込んでコウセツがあるらしい。

(ア) 公設           イ 巧拙           ウ 広設           エ 巷説           オ 高説           カ 降雪           キ 高節

5 太平洋を三十日かけて、コウコウする船は豪華客船だ。

6 毎日、母親に電話するのもコウコウのひとつである。

7 野球の試合は、コウコウの方が有利だと思われている。

8 コウコウには、安全確認のための鳥かごがつり下げられていた。

9 農芸・工業・商業・夜間・通信・普通などさまざまな種類のコウコウがある。

(ア) 高校           イ 航行           ウ 工高           エ 坑口           オ 口腔           カ 孝行           キ 後攻

10 左半分が輝いているカゲンの月。

11 あんな失敗をするなんて、わたしの間抜けさカゲンに嫌気が差す。

12 みんなでカゲンを尽くして寿いだ。

13 遠足のお小遣いにはカゲンはない。

(ア) 加減           イ 仮言           ウ 嘉元           エ 下弦           オ 下限           カ 佳言           キ 寡言

14 全人類が平和をシコウしている。

15 その光をもたらすシコウな存在への愛を、はっきり感じる事ができたのです。

(ア) 施行           イ 至幸           ウ 志向           エ 思考           オ 至高           カ 伺候           キ 試行

**五**

次の1～5の空欄に適当な漢字を入れて四字熟語を作りなさい。

(A) 漢字はア～コから選び、記号で答えなさい。また、(B) 正しい意味をa～gから選び、記号で答えなさい。

- 1 大□名分
- 2 大言□語
- 3 大喝一□
- 4 大所□所
- 5 大□成就

(ア) 人    イ 声    ウ 小    エ 壮    オ 義    カ 望    キ 願    ク 高    ケ 音    コ 賢

- a かねてから望んでいたことが叶うこと。
- b どなったり、叱ったりすること。
- c すぐれた賢者が、日に日に自己変革すること。
- d 実力不相応な大きなことを言うこと。
- e 広く全体を見通すような観点・視野。
- f 騒ぎばかりが大きくて、結果は非常に小さいこと。
- g 行動のよりどころとなる道理。

一

問六	問五	問二	問一	
4	A	2	カ	ア
	2		がまん	きぎ
問七	B	問三	キ	イ
2	1	4	ぶん	かいしん
	せき	ク	ウ	
	C	問四	肯定	褒・誉・賞
	1	4	ケ	工
	D		しゅし	機嫌
	1		コ	オ
			投稿	外

問二4点

問3・4

漢字3\*5

読み2\*5

65

100

二

1
イ
2
ウ
3
ア
4
ア
5
ウ

三

1
イ
2
ウ
3
ア
4
ア
5
イ

四

11	6	1
ア	カ	イ
12	7	2
カ	キ	オ
13	8	3
オ	エ	ア
14	9	4
ウ	ア	カ
15	10	5
オ	エ	イ

五

B	A
1	1
g	オ
2	2
d	エ
3	3
b	イ
4	4
e	ク
5	5
a	キ

二〇二二年度 国語総合 解答用紙

氏名

Blank box for name

受験番号

Blank box for exam number

1\*5 1\*5  
10

1\*15  
15

1\*5  
5

1\*5  
5

35

5\*2  
10

4\*4  
16

5\*2  
14

25

Blank dotted boxes

Blank dotted boxes

Blank dotted box

Blank dotted box

Blank dotted boxes

Blank box

Blank box